

## 第1回 学校運営協議会 議事録

実施日：令和3年7月16日(金)

場 所：六郷高等学校会議室

### 1 学校運営協議会会長挨拶

いつも御協力いただきありがとうございます。昨年度はコロナウイルスの影響でなかなか活動できなかった。本校への入学者数の現状がとても厳しい。中学生の数が減っている事を踏まえても、様々な面で苦戦が予想される。地域の人間としては学校をどのように盛り上げていくかが課題だと考える。そして来年度は志願者が3クラスを充足するようにもっていきたいと思うので、各方面での御協力を引き続きよろしくお願ひしたい。

### 2 委員委嘱および出席者紹介 (別紙名簿を参照して校長より)

### 3 校長挨拶

今年度は44名の1年生を迎えてスタートした。コロナ禍で厳しい制限を伴いながらも何とか教育活動ができています。地区総体や全県総体も無事に終わることができ、おかげ様で自転車競技部の2年生生徒がインターハイ出場を決めている。競技は8月下旬に開催される予定である。学校祭も一般公開は中止したものの何とか校内発表形式で行うことができた。

ところで1年間学校行事を行わないと学校にとって大きな痛手であることを痛感した。例えば、2年生が応援練習を経験していなかったため、練習のスタートでは多少苦勞した部分があった。修学旅行については、早々に県内旅行に切り替えて準備をしている。

今後もPRに向けて様々な活動が大切になってくる。その意味でも本校として頑張っていきたい。またお力添えを引き続きよろしくお願ひしたい。

### 4 協議

#### (1) 学校運営方針について (校長より)

コミュニティスクール3年目となる本年度の教育目標は昨年度と同じである。昨年度はコロナウイルス感染拡大の影響で第2回目と最終回の会議を開催できなかったため、アンケートで教育目標に関してお伺ひした。特に御意見等がなかったため、昨年度と同じ目標にすることにした。校訓や目指す生徒像についても変更はない(学校要覧を参照)。重点目標の(1)と(2)については、分科会で話し合っただけきたい。委員各位の御賛同をお願ひしたい。

## (2) 年間スケジュール及び協議内容の概要説明

今年度の予定を別紙資料にて確認したいが、コロナウイルス感染拡大の影響により予定を急変する可能性もあるのでお含みおきいただきたい。本日の分科会において、先程承認された学校教育目標を踏まえて各部会でどのような六高生を育てていきたいか、そのための目標と施策を話し合っていたいただきたい。また、各部会で様々な活動を本校の志願率低迷の歯止めはどうつなげていくかを話し合っていたいただきたい。

## (3) 本校の生徒数、中学校卒業生数の推移、高校入試の状況について

(教頭より)

今いる本校生をどのように育てるかとともに、生徒の確保をどのようにしていくかが大きな課題である。数字で分析しグラフ化したものが資料の10、11ページにあるとおりである。特に、来年度大仙地区で卒業生数が20名増えるといっても、この春の高校入試全体の選抜状況を見ると実質倍率が1.00で受検者の全員が入学している。他校から呼び込むとした場合、大学進学者より就職を希望する中学生を本校に呼び込むことがカギになる。本校は就職内定先も良く、建設業への参入も見られる。こうした情報発信を各中学校に向けてどう発信していくかも大きな課題である。

## (4) 質疑応答

<鈴木正洋 委員より>

低迷する志願者数を改善するために特別な動きを何か考えているのか。

<校長より>

まずは広報活動を変えてみた。具体的にはCS通信を送付することで各中学校への広報活動に注力していくことにした。とりわけ大仙、仙北地域の中学校に置いていただいている。中学校での学校説明会において作戦を考え、PRを練り直して実践していきたい。これによって女子生徒の更なる取り込みを図りたいと考えている。また、福祉科希望者をもっと発掘していきたい。秋田県高等学校整備計画によると、本校は全県唯一の福祉科がある学校ということを踏まえ、地域連携を一層深め、最終的には生徒一人一人の進路の充実を更に図っているとある。他校に関しては学校存続に関する協議を促進すべきという文言になっているところから本校との違いがはっきりしている。福祉科に向かう人材の確保という点から福祉科をもっと前面に押し出していきたい。地元に残って働き、社会の形成者としての自覚を持って卒業生達は頑張っている。このことから福祉科のみならず、本校をPRしていく方策を考えたい。

<福田世喜 委員より>

生徒募集に向けた取り組みやゴールを考えるにあたって、昨年度の活動実績や成果を踏まえて議論したい。

<校長より>

昨年度は除雪ボランティアや地産地消をテーマにした弁当作りなどを除いてほとんど活動することができず歯痒い思いをした。1年生の総合的な探究の時間では地域の魅力を発見するための地域学習、園児交流や小学生を対象にした福祉科体験授業等、何とか実施することができたので今後も是非続けていきたい。今年は何とかなることを積極的にやっていきたい。授業改善に向けてタブレットや電子黒板の使用も積極的に行っている。キャリア教育においてはオンライン形式で企業学習や働くにあたっての心構え等を学ぶことができた。そしてコロナ禍にもかかわらず、3年生を対象に企業の方々に直接御指導をいただいた。このように地元企業のお世話になりながら生徒の進路活動を進めることができた。

<藤岡誠人 委員より>

昨年度の福祉科の倍率はどうなっているのか。

<教頭より>

普通科とくくり募集のため単独での倍率は分からない。本校では1年生の後半から専門の勉強がスタートする。地域のニーズも高いので、介護福祉士国家試験合格率を100%にしたい。

<鈴木正洋 委員より>

高校受験の際に志願理由に挙げている生徒はいるのか。

<教頭より>

他地区から福祉を学びたいという女子生徒がいるものの、交通が不便であることが課題になっている。

<福祉科科長より>

中学校側の受検指導に負う部分もあるのではないだろうか。面接において受検生は福祉の学習に言及するものの、結果的に福祉科の安定した定員確保につながっていないのが現状だと思う。

<岩田 稔 委員より>

CS通信や「みさと福祉だより」など学校の様子や生徒の活動等が詳細に分かってよい。全国福祉高等学校協会主催「生徒体験発表」で1位になった生徒の感動的な文章が中学生に届けられる機会を積極的にもっていただきたい。福祉科の活動の記録やまとめ等も中学校にこれまで以上に中学校に発信していきたい。こうしたすばらしい考えを

持つ本校生徒が実際に中学校に赴いて、直接語りかける機会も確保した方がいい。こうした中高連携を今まで以上に進めるべきである。

5 各専門部会の取り組み内容の確認（分科会形式）

**ボランティア等の地域貢献活動**

目標 地域ボランティアや体験活動の推進（防災活動の推進）

- 施策 ① 町内清掃やゴミ拾い、除雪等できる活動を継続する。  
② クロスロード（防災活動ゲーム）への参加・体験。

**広く深く豊かな学習活動**

目標 1 生きて働く体験的な学習体験を充実させる

- 施策 ① サポーターとつながり、広く地域人材を活用した授業の工夫。  
② 地域人材と結びつき、地域を深く理解した、科、コースの特性を広げる活動を充実させる。

目標 2 科、コースの特徴を広げる地域人材との結びつきの充実。

- 施策 ① ICTやSNSを活用した情報発信を工夫する。  
② 繋がりのある生徒の人間関係を生かした情報発信を工夫する。

**キャリア教育を推進する活動**

目標 進路意識を高め、主体的、積極的に自己実現を図る。

- 施策 ①町内企業による就職希望者への指導  
②同窓生のみならず地域の方々から幅広く生き方について学ぶ。

各作業部会は終了後、各々で散会